

でも、優秀な講師に来てもらうには塾舎がこのままでは

駅近くに塾舎建設、二年目の実績で母校九大に合格者

今年度の春季講習のチラシで塾生数は三〇名増えました。

現状の塾生数は？

年で最大五〇名になりました。開塾初めての昨年の大学受験者は一名、そのうち一〇名が国立大、難関私大に受かり、第一志望校の合格率は九〇%を超えました。その後夏前には七〇名の塾生になり、塾舎として借りている建物は二階だけだったのですが、手狭になり、一階も借りました。夏期講習で一〇〇名突破、一人では無理だと思い、講師を探し始めました。運よく阪大の大学院を卒業した人と知り合い、強引にスタッフになつていただきました。

開塾2年目にして驚異的な 国公立大合格実績を出す

まずいと、テナントを探し始めました。たまたま西条駅から近いところにあるマンションに住まいとして転居することを決めたところ、マンションのオーナーが目前の土地が空いてる、ここで塾をやってみたら、と言ってくれたんです。本当にラッキーでした。

設計二週間、昨年10月に建築開始、突貫工事です。2月に半分完成、続いて第二期の建設工事に移り、4月10日建坪八三坪（駐輪場を入れると一〇〇坪

西条市にあるやぶき塾



現状（4月下旬現在）で塾生数トータル二一〇名です。

——高校生は西条高校理科の塾生が多いと聞いています。

実は最近の母校の理数科は定員割れしていて、今一つ人がなく、元気がない。地域の教育関係者、諸先輩方の復活を期待する声も聞きます。私の塾がこの期待に少しでも応えられればと思っただけです。

もちろん普通科の生徒もたくさん来てくれてます。今年の受験結果ではじめて、私の大学の母校である九州大

（理）にも合格者を出しました（他に広島大、岡山大、九州工大、鹿児島大などに合格）。

新中三生対象に、スーパースイエンス講座開講

——ほとんどの塾生が高校生ですが、「中3スーパースイエンス講座」も始めましたね。

昨年夏、実はどうしても頼むという熱心な保護者の方がいて、一人だけ内緒で預かっていたのですが、この生徒が瞬く間に成績を上げて、それが噂になり夏期講習で七、八人集まりました。実力テストで理科塾内平均点が九二・八点（東予地域ナンバワン）という頑張りを見せしてくれました。その後10月に出したチラシで一挙に二〇人になりました。中三の塾生は、当然ながら全員東予地域の難関校に進学しました。

——チラシに演習が最重要で、そのために徹底したプリント対策を行うとあります。

開塾してから退塾した塾生は五人です。文系、理系、物理トップ、化学トップなど、かなりクラス分けを細かくしてありまして、その結果少数指導ということになり、その分みんなついてきてくれるのだと思います。

——五年後、一〇年後のビジョンは？

現状はまだまだ基盤づくりに追われていますが、こんな田舎でも理数系の専門性のある塾へのニーズがあることが分かりました。

ならば、将来このビジネスモデルは大都会でも充分通用するかもしれません。理科・物理に特化した専門塾があってもいいはずですよ。これをコピーするのは大変でしょうが、全国レベルで展開することも選択肢として見えてきました。

やぶき塾 (愛媛県西条市)

矢葺 巨 塾長



矢葺 巨 塾長

これからの個人塾はどうあるべきか。塾長のカリスマ性で塾生の心を掴むか、専門性・オンリーワンの特色で他塾との差別化を図るか。いずれにせよ、マーケットの縮小と寡占化で状況は楽観視できない。いわんやこれから開塾する若い塾の場合はなおさらだ。だが、ここに見事この難問に答えてくれた塾がある。矢葺 巨 塾長は最近、このビジネスモデルは全国規模で通用するのでは、と考えている。

理数専門塾の開塾で 母校に恩返し

——矢葺先生の自己紹介からお願いできますか。

ここ西条市の西条高校理数科を出て九州大学大学院工学研究科を卒業、大学院や大学院生への授業に助手として携わっていました。専門は地震工学です。

学部四年生の時、阪神淡路の大震災があったので耐震建築の分野に進もうと決心しました。しかし当時学生というより、無給の勤め人と同じで、仕事と遊んでいました。夜の12時まで研究

ただ五年ぐらい経つと、一気に仕事がなくなりました。研究室でやっていた「耐震設計基準」は出し尽くし、あとはお役所がやる仕事になったからです。

建築・土木業界も縮小淘汰され、研究者も少なくなり、社会的には産業として成熟したということもあります。予算も削られ、正直言って、もうこのあたりが引け時かなと思いました。助教という選択もありませんが、そうなるかと、なかなか踏み切りがつかせません。

結局、助手で七年間大学にいて辞職しました。西条市に帰り、家業を継ぐことも考えたのですが、専門の土木の設計、ほかに農業、漁業でもビジネス化さえできればなんとか生活できると思っっていました。

もと九大大学院の
助手、地震工学の
エキスパート

室で働いていました。修士課程から助手となって初めて給料をもらえましたが、当時は予算が潤沢にあり、実験設備の購入なども一任されていて、教授、上司などとの人間関係もよく、研究に没頭できました。

ただ五年ぐらい経つと、一気に仕事がなくなりました。研究室でやっていた「耐震設計基準」は出し尽くし、あとはお役所がやる仕事になったからです。

建築・土木業界も縮小淘汰され、研究者も少なくなり、社会的には産業として成熟したということもあります。予算も削られ、正直言って、もうこのあたりが引け時かなと思いました。助教という選択もありませんが、そうなるかと、なかなか踏み切りがつかせません。

結局、助手で七年間大学にいて辞職しました。西条市に帰り、家業を継ぐことも考えたのですが、専門の土木の設計、ほかに農業、漁業でもビジネス化さえできればなんとか生活できると思っっていました。

故郷に帰り、母校の生徒に理数の楽しさを伝授

——ところが塾の開塾を選んだわけですね。

学生時代に九州の大手塾でアルバイトの経験があったので、大学辞職後、ある地元の学習塾にお世話になりました。約一年間勤務しましたが、とても楽しかったんです。

——2006年3月、母校の西条高校の近くに大学受験専門塾「理数のやぶき塾」を開設しました。

母校の西城高校の近くに小さな部屋を見つけ、開塾しました。「西条高校の授業に完全対応」と謳ったチラシを撒き、当初は一〇名ぐらいからのスタートでした。教えるのは理数だけでしたので最初は不安でしたが、文系志望の塾生が困っているのは理数で、理系志望の塾生でも、もともと実力を伸ばしたいと感じていますので、今となっては理数に絞って入らせた方がいいと思います。

開塾したその年に高校三年